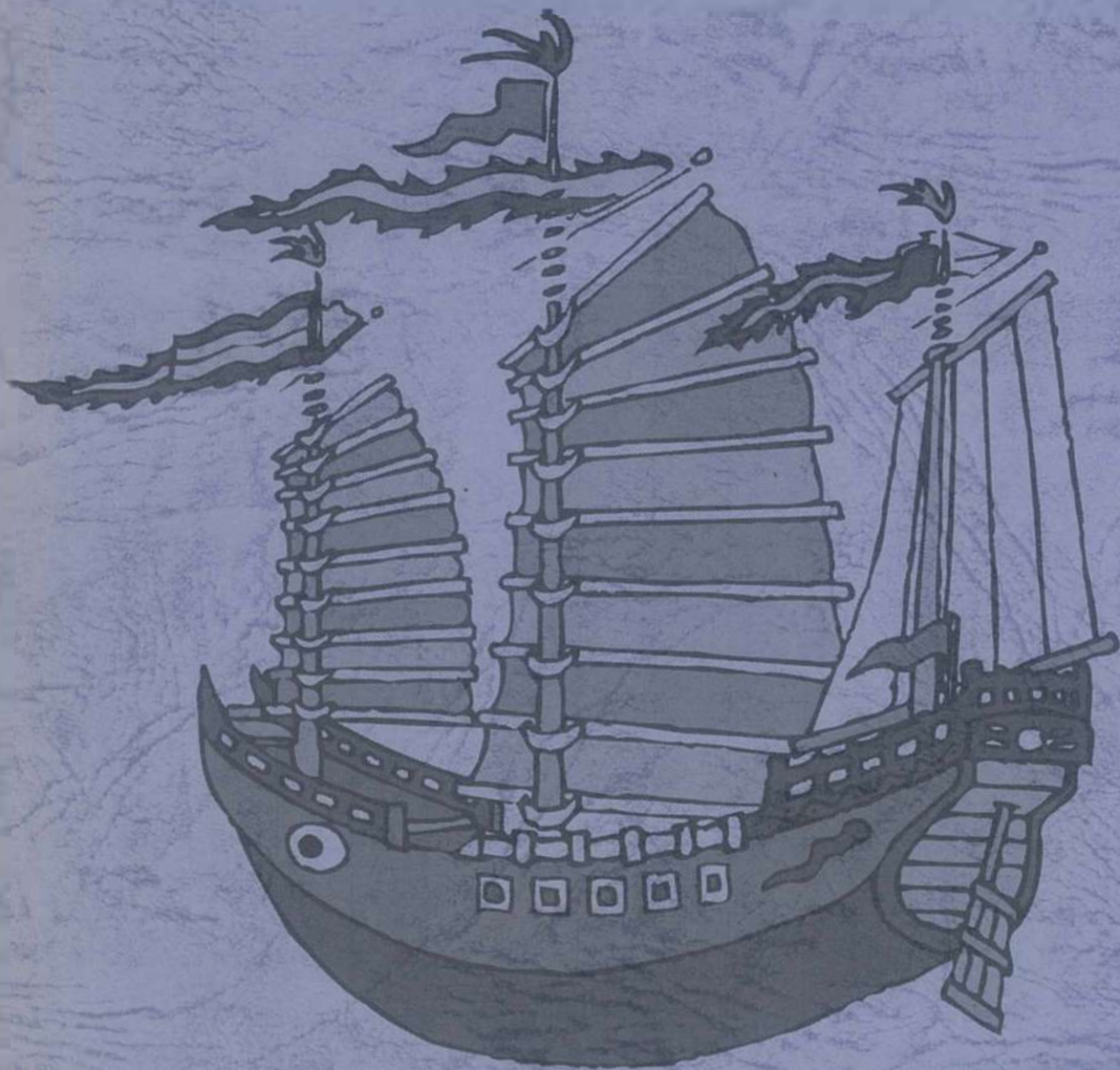


課内保管用

※配付厳禁※

平成18年度

沖縄県海外留学生修了報告書



財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

沖縄県海外留学生受入事業は、当財団が沖縄県より受託して行っております。

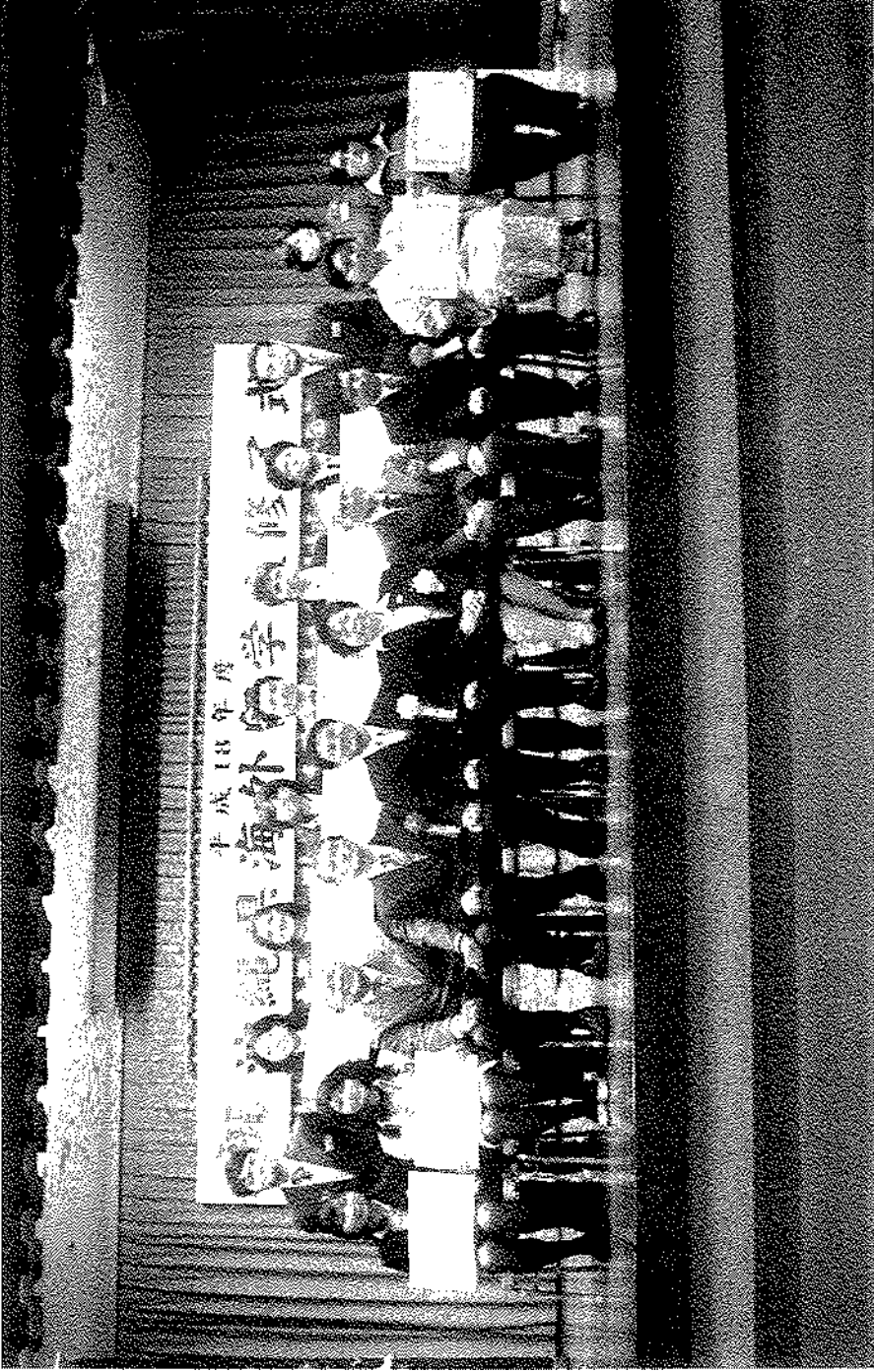
平成18年度は、琉球大学に海外移住者子弟留学生5名・アジア諸国等海外留学生3名、県立芸術大学に海外移住者子弟留学生2名、名桜大学に海外移住者子弟留学生1名の合計11名を受け入れました。

この事業は、本県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がり深い中国・台湾から優秀な人物を選抜し、県内の大学に留学させ、日本の文化・産業・教育及び社会の実状を理解させるとともに、県民との交流を深め、広く移住先国及び出身先国の発展に貢献しうる有為な人材として育成し、本県との国際交流を促進することを目的としております。

この報告書は、留学生が本県での留学中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での就業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や、研究テーマ発表へ向けての取り組み、県民の皆様や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

本事業実施に際し、留学生を受け入れていただきました琉球大学、県立芸術大学、名桜大学、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団
理事長 山内 彰



〈 平成18年度 沖縄県海外留学生修了式 〉

平成19年3月9日(金) サザンプラザ海邦にて

目 次

○海外移住者子弟留学生(8名)

- | | | |
|-----------------------------|----------------|-----|
| ・ 留学の思い出“映画「恋敵」制作、優勝！のど自慢” | 仲宗根 シルビア ベアトリス | 1P |
| ・ “沖縄とボリビアをつなぐ架け橋となって” | 山城 大久保 興太 ルベン | 3P |
| ・ バイバイ沖縄 | 田井 デイナ 美智雄 | 8P |
| ・ “出会い、別れ、人の大切さ” | 陳 シンシア | 11P |
| ・ “故郷となった沖縄” | 大浜 フィリス アン | 13P |
| ・ 沖縄で過ごした一年間！！ | 新城 えみ レナータ | 17P |
| ・ 人生の良い勉強 | 新里 ヨネ | 19P |
| ・ 沖縄での 10 ヶ月間の留学生活、楽しい思い出作り | 照喜名 稲嶺 重邦 | 21P |

○アジア諸国等海外留学生(3名)



- | | | |
|----------------------|------|-----|
| ・ 「沖縄プロジェクト」 | 呉 俐君 | 27P |
| ・ “なせばなる、なさねばならぬ何事も” | 徐 慈伶 | 30P |
| ・ 幸運のあたし | 王 素斌 | 32P |

平成18年度沖縄県海外留学生名簿


1 海外移住者子弟留学生（琉球大学 5名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	仲宗根 シルビア ベ アトリス SILVIA BEATRIZ NAKASONE	アルゼンチン ARGENTINA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	山城 大久保 興太 ルベン OKUBO KOTA RUBEN YAMASHIRO	ボリビア BOLIVIA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	田井 デイナ 美智雄 DANA MICHIO TAI	アメリカ（ハワイ） U.S.A. (HAWAII)	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	陳 シンシア CHEN CYNTHIA	アメリカ U.S.A	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	大浜 フィリス アン ANN PHYLLIS OHAMA	カナダ CANADA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

2 海外移住者子弟留学生（芸術大学 2名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	新城 えみ レナータ RENATA EMI ARASHIRO	ブラジル BRASIL	県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース
	新里 ヨネ YONE SHINZATO	ブラジル BRASIL	県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース

3 海外移住者子弟留学生（名桜大学 1名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	照喜名 稲嶺 重邦 INAMINE SIGEKUNI TERUKINA	ペルー PERU	名桜大学 科目等履修生 （日本語、デジタルア ニメーション等）

4 アジア諸国等海外留学生（琉球大学 3名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	呉 俐君 WU LI CHUN	台 湾 TAIWAN	琉球大学 法文学部研究生 人間科学科 社会学専攻
	徐 慈伶 HSU TZU LING	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	王 素斌 WANG SUBIN	中 国 CHINA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

留学の思い出「映画「恋敵」制作、優勝！のど自慢」

仲宗根 シルビア ベアトリス

沖縄に留学して、あっという間に一年が経ちました。日本語や沖縄の文化の勉強のため、去年の4月、8カ国から11人の留学生在が沖縄で新しい生活を始めました。

10年ぶりに沖縄で親戚と会うことができました。いとこたちは元気でとても大きくなっていました。そして結婚して子供もできたいともいいました。10年ってあっという間に過ぎますし、子供も成長するのが早いです。でも変わらないものは、人間の暖かい心だと思います。

沖縄へ留学することができたおかげで日本語力がのびました。また、日本語力だけではなく、沖縄の人と接し、沖縄の物を口にし、沖縄の様々な物を目にし、耳にし、沖縄の空気を体全体で感じることで私たちは沖縄のことを今まで以上にもっと理解できるようになりました。留学生生活は慣れるまで、大変でした。そのため、沖縄にいる留學生たちは毎週木曜日、ボランティア教室に参加しました。

今回留學生として来て、いろんなところに行くことができました。留学期間中にクラスの人たちと一緒にいろんなところを見学しました。中村家、那覇高校、平和記念公園、ガマ、あわもり工場、着物を染めるところ、などです。この経験は宝となって、琉球大学で前期にはプロジェクトワークの機会に発表しました。このプロジェクトは、日本語がどれまで上達したかということを示すために行うものです。私たちのグループは映画を作りました。タイトルは「恋敵」でした。内容は四人の外国人が沖縄に住んでいる日本人の友達に会いに行く映画です。旅行中にいろんなカルチャーショックや沖縄で学んだことや五人の物語が20分に流れます。この作品は自分自身が学んだことや経験したものです。

ついに、夏休みがやって来ました。八重山に行ってきました。そこで、私の大好きな「ちゅらさん」のステージを見ることができました。友達のアンさんの親戚の紹介で、小浜島のクリニックにも見学することができました。みちゃん叔母さんお世話になりました。

夏休みが終わってから、財団のコハツさんから電話がありました。「早苗、ウチナンチュ大会のため、のど自慢が宜野湾市に来るらしいよ。さんかしてみない？」と言われました。「面白そうだから行ってみよう」テレビにでる機会もないから、ちょっといいかも。思い出になるかもしれない。「遊びに行こう！」と思っていた私が、のど自慢で驚きの発表・・・その結果、優勝しました。

入学の日から今まで勉強や生活の相談にのり、いつも助けてくださった先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。いつも私達学生と交流してどんな問題でもやさしく、ゆっくりと説明してくださりありがとうございました。後期には、琉球大学のスピーチ大会がありました。このイベントは学生たちが一番緊張するときです。スピーチは二日間ありました。一日目は初級クラス。二日目は中級クラスと上級クラス。アメリカからの留學生、チャーリーと私は初級クラスの司会をしました。スピーチ大会の準備で夜遅くまで一緒に練習してくださったおかげで私たちは全員ベストをつくすことが出来たと思います。

留学の中で一番辛い時は何ですかと聞かれると、それは、兄弟のようになった友達が帰国する時です。この一年に渡る沖縄での生活は、両親の島を来る前よりもっと好きになって、アルゼンチンに帰る事が出来ました。琉球大学の先生方にお世話になり、いろいろな人々に会い、昔の沖縄の話題を聞かせて下さったり意見を交換しました。日本のお父さんとお母さんと兄弟と姉妹が出来ました。及び先生方、財団の皆さんと世界中の友達。友達になった人々と深い心の交流が出来たから、今でも、離れても親しいメールのやり取りをしています。

私達を受け入れてくださった沖縄県知事、財団法人沖縄県国際交流人材育成財団理事長、学校関係者、Centro Okinawense en la Argentina その他お世話になった全ての方本当にありがとうございました。

“沖縄とボリビアをつなぐ架け橋となって”

ボリビア共和国 山城・大久保・興太・ルベン

はじめに

今回の留学は私にとってとても意味深いものとなりました。それはなぜかというとな授業はもちろん、生活の一つ一つが私にとって初めての経験であることが多く、戸惑いながらも楽しく過ごすことができました。このような経験をさせていただいた沖縄県国際交流人材育成財団のかたがた、琉球大学の先生方や同じ留学生の仲間たち、沖縄で私の面倒を見てくれたすべての人たち、またボリビアの沖縄県人会や日本ボリビア協会の皆さん、大切な家族たちに心から感謝します。

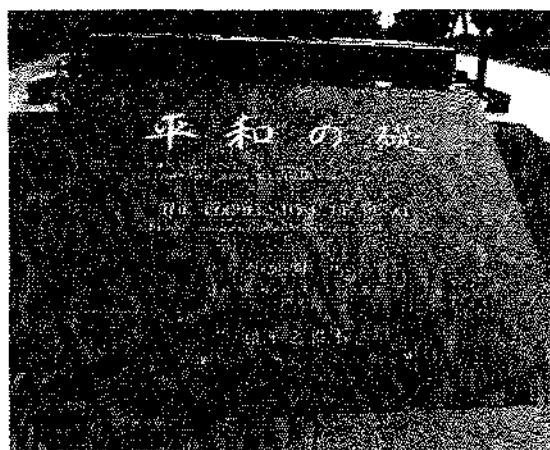
大学での授業

大学での授業は前にも書いたとおり、ボリビアで受けていた授業とはまったく異なり、どれも魅力的で興味をそそられる授業でした。特に興味を示したのは金城尚美先生の授業で、授業内容はニュースを聞いて現在の日本事情や世界事情をみんなで学びながら日本語の向上を目指すもので、語彙や文法などだけではなく実際にニュースを聞くことで、聴解の訓練にもなるというすばらしい授業だと思いました。

またこのような大学校内だけでの授業ではなくいわゆる課外授業も多くありました。



中村家にて！



平和記念公園



ちゅら海水族館



首里城

ごらんのように沖縄の有名な観光地や歴史的に価値のある場所に実際に足を運ぶことで、文化を体で感じ、自分の目で体で体験することでより理解を深めることができました。このような見学の機会を与えてくださった大学の先生方に心より感謝します。

琉球大学の留学生や日本人学生との交流

今回の留学で私にとって新鮮だったのが他の国の留学生や日本人学生たちとの交流です。

私は以前 JICA の日本語研修で横浜に約一ヶ月間滞在していました。その時は南米の国々の留学生と一緒にでした。似たような環境の人たちと一緒にだったのです。しかし今回の沖縄への留学は北米や中南米はもちろん、アジア諸国、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリアなどの本当に世界の国々の人たちとの交流を持つことができました。それは私にとって見解を広める上で、そして人として大きく成長するために欠かせないものだと思います。

留学生のみんなとは勉強はもちろんのこと、一緒に遊んだり、三線などの沖縄文化に触れたり、またあるときはケンカし、あるときは慰めあい、この一年を家族のようにと

もに過ごしてきました。他にもいろいろなところに見学に行ったりと大学だけでなく、
沖縄全体が交流の場でした。

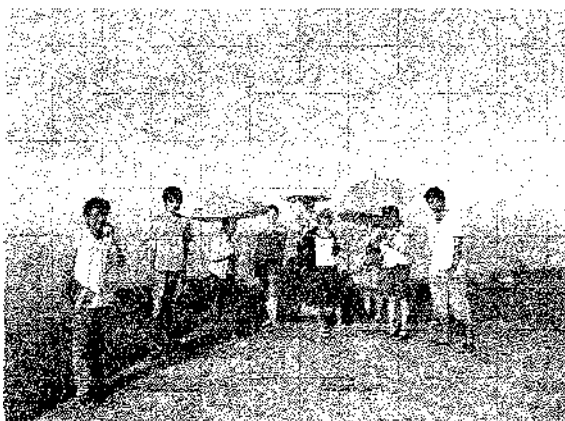
また同じ県費留学生としてともに肩を並べてがんばった皆さんには心から感謝して
います。彼らの暖かい声や励ましがなければ今の自分はなかったでしょう。



琉球大学留学生祭り



OTV 見学



渡嘉敷島にて



県費留学生定例会

さまざまなイベントへの参加

この一年は私をさまざまなイベントに参加させていただきました。

まず一番印象に残っているのは第四回世界のウチナーンチュ大会です。一校一国運動を皮切りに、さまざまなことに参加させていただきました。閉会式ではなんと留学生を代表して挨拶させていただくなど、とても貴重な体験をさせていただきました。

次に印象に残っているのは、各弁論大会です。その中でも女子弁論大会は忘れられません。あ那时的喜びと悔しさといったら表現できないほどでした。しかし先生方のご協力と皆さんのご声援のおかげで、琉球大学留学生弁論大会、女子留学生弁論大会、沖縄県外国人による弁論大会で最優秀賞と優秀賞をとることができました。本当に心から感謝しています。



第四回沖縄県外国人による弁論大会



一校一国運動小浜島にて

さいごに

ごらんのように私はとても貴重な経験を数多くしてきました。前にも書いたとおり、私にとって沖縄に住むだけで人としての成長の糧になっていたのです。勉強にとっても同じで、毎日を日本語だけで過ごすこと、テレビをつけてもすべてが日本語、他の留学生との共通語もほとんどの場合が日本語、といった状態でよい意味で嫌でも日本語が上達するのを感じました。

私は将来教師を目指しており、沖縄での経験は本当に私にとって夢に向かうためにも、そして人間として何が大切か、これからの自分には何が必要なのかを知るとても素晴らしい機会になりました。私はここでの経験を生かし、夢に向かって、そして日本とボリ

ビア、沖縄をつなぐ架け橋になりたいと思っています。

これからの道は厳しく多くの壁が立ちはだかるかもしれませんが、それに負けずにここ沖縄にいたころの気持ちを胸にがんばっていきたいと思っています。

最後になりましたが私を推薦してくださったボリビアの沖縄県人会、日本ボリビア協会の皆様、私たち県費留学生を受け入れてくださった沖縄県国際交流人材育成財団の皆様、琉球大学関係者と留学生の皆様、学生寮の職員の方々、私を支えてくださった沖縄にいる親戚の皆様、そしてボリビアと東京で私のことをいつも応援してくれている家族のみんな、そしてわたしと一緒に泣いたり笑ったりしていた友人たちに本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。今までお世話になりました。

これからもこの関係を終わらせるのではなく、ずっと続けていきたいと思っています。本当に今までありがとうございました。

バイバイ沖縄

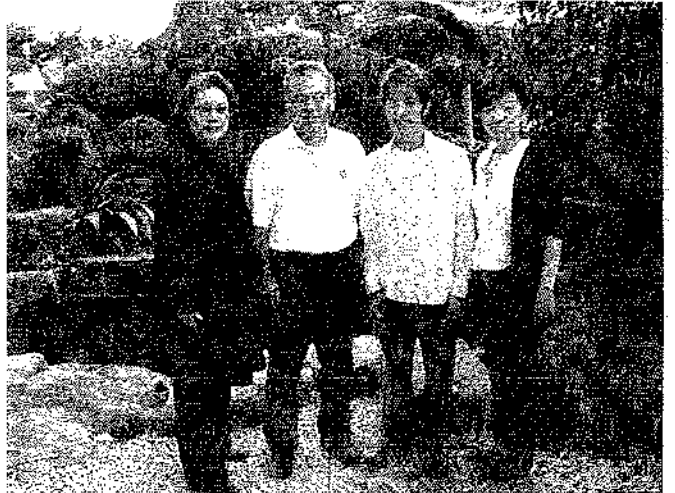
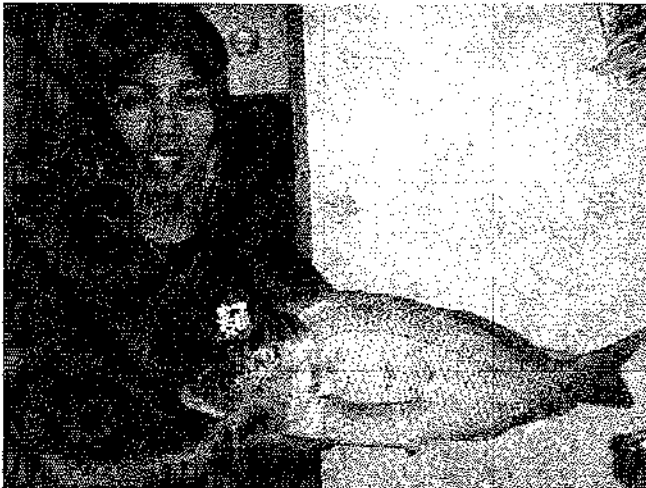
田井 デイナ 美智雄

この一年間のなかで、日本語をたくさん習うことができました。沖縄に初めて来た時、漢字をよく読めませんでした。沖縄に着いた時、無料で妻に電話をするため VODAFONE の携帯電話を買ったかったです。だから電話ちょうで VODAFONE の店の住所が書いてあるページを見つけました。歩いている人に「この漢字どうやって読む？」と聞いて、おろく、那覇と答えました。バスのスケジュールをぜんぜん読めなかったが道路標識は日本語と英語が書いてあったから那覇のほうに歩きはじめました。そして、やく5時間かかりました。その時からたくさんの漢字と日本語を覚えはじめました。まだそんなたくさんの漢字は読めませんが少なくとも少しは読めるようになりました。



沖縄でたくさんのいい思い出や経験をもらいました。沖縄に来る前、僕の友達に「沖縄とハワイはそっくり」と言われて、ほっとしました。しかし、沖縄に来た時、寒かったし、琉大の寮で海が見えませんでした。だから沖縄とハワイはぜんぜん違うと思いました。でも、しばらくたって、沖縄でたくさんの美しいところを見ることができました。おじ

さんと一緒にいろんなことをやったから、沖縄でいい経験ができました。沖縄は本土と比べたら、いろんなことが違います。おじさんは最初の時、ヒージャーを買って、殺して、生で食べました。彼はヒージャーの頭でスープも作りました。ちょっと気持ち悪かったと思ったけどとてもおいしかったです。おじさんと彼の友達と一緒に飲みに行った時、彼はいつもウチナーぐちを話しました。おじさんと彼の友達はウチナーぐちを教えてくださいました。そして、おじさんといつも釣りに行きました。沖縄の魚がたくさん見えました。たまにハワイと同じ魚もいるけどほとんどの魚はぜんぜん違います。しかし全部おいしかったです。最後に新人賞や那覇祭りなどふくめて、いろんなイベントで三線を引けました。



沖縄でいろんな経験をしたからハワイに帰ったら、ハワイの人に僕の経験を伝えることができます。ハワイではたくさんの沖縄日系人がいるけど沖縄のことをすこししか知りません。

例えば、彼らは自分たちが沖縄人であるということ、毛がこいということ、沖縄で三つの弦がある不思議な楽器を弾くということです。もし僕が沖縄での経験をハワイの人たちに話せばハワイの人たちに興味をもたせることができ、いつか彼らは沖縄に来るかもしれません。一年間に沖縄で勉強をすることができたので本当に感謝しています。この経験を絶対忘れません。

“出会い、別れ、人の大切さ”

陳しんしあ（アメリカ、ジョージア州）

私が沖縄へきたのは去年の5月のことです。県費留学に申し込みをしたのは母だったので、私はインタビューを受けたあとは沖縄への留学のことはいっさい聞かされていませんでした。でも、5月の初めに急に母から「あなた沖縄行くから準備しなさい！」と急に言われました。私は驚きを隠せませんでした。とまどっている時間はありませんでした。5月はちょうど期末テストの時期だったので勉強もし、バイトもして、忙しい最後の一週間でした。私は沖縄で過ごす一年分の荷物をわずか3時間でまとめ、眠らないで空港に向かい、28時間かけてやっと沖縄へついたので。飛行機に乗っている時は全く沖縄へ行くという実感がありませんでしたが、実際に沖縄に着いてみると、アメリカから数千キロも離れて、親に会いたくてもすぐに会えないという寂しさから涙があふれてきました。でも、泣いている暇はありませんでした。すぐに、財団の人と大学に向かい、翌日からは琉球大学での授業に参加しました。

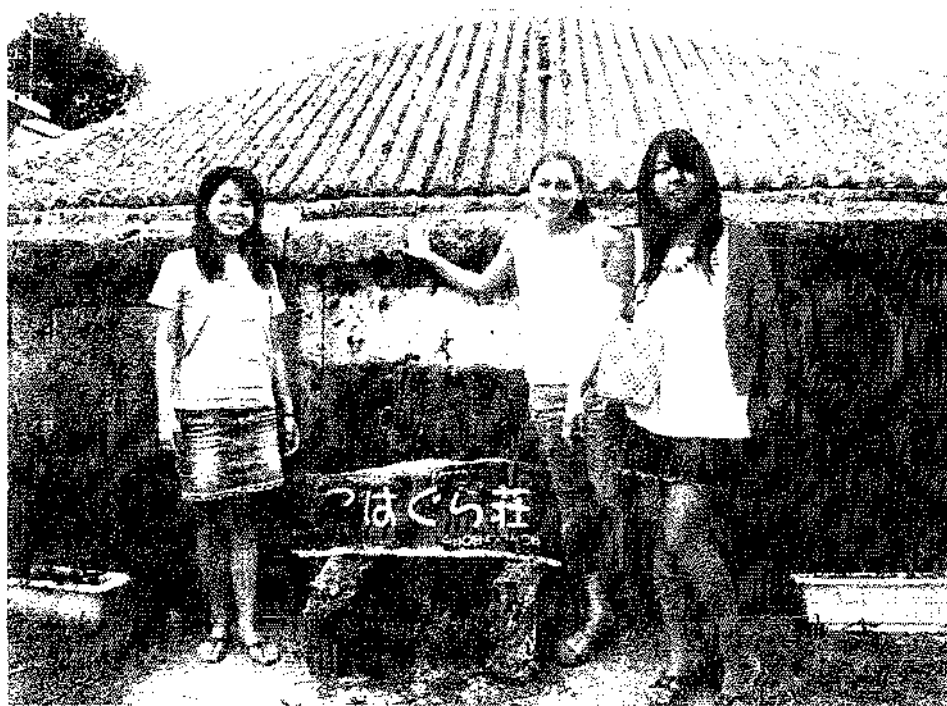
普段緊張を全くしない私ですが、初めての日本での授業で自己紹介をする時、私はとても緊張しました。いつもどおりに明るく「こんにちは〜！」と挨拶をしたら、変な人かのように見られ、少しショックを受けました。でも、その中にも声をかけてくれる人たちもいて幸いでした。でも、帰りたいという気持ちはその時は変わりませんでした。

でも、時が経ち、友達も増え、いい学生生活を満喫していたのですが、今度はその友達が国に帰ることになり、ショックを受けました。私は最初から悲しい別れを味わうくらいなら、出会わなければよかったと甘えたことを言っていました。そんな私に母は「がんばりなさい。甘えるんじゃないの。強くなりなさい」などの励ましの手紙や電話で私はどれだけ励まされたことでしょうか。アメリカにいる友達にも相談してみると、「応援してるから、がんばってね！しんしあが帰ってくるのを楽しみに待っているよ」などの励ましも受け、私は初めて親と友達の大切さを実感した気がしました。普段近くにすぎで、どれだけ私にとって大事な存在だったかということをおぼえていたのかもしれない。

私は沖縄にいる10ヶ月間、色々な人に出会いました。そして、色々なことを学びました。そして・・・沖縄のみんなと別れるのが怖くなりました。私はいつものように甘えていました。でも、これが永遠の別れではないということに気がつきました。「同じ地球に住んでいるんですから、会いたい時はいつでも会える！」と考えることにしました。このように、出会いと別れが繰り返され、私は強くなっていくのだと思います。沖縄に来て、親の大切さ、友達大切さ、先生の大切さがわかりました。そして、一年間私の留學生活を支えてくれた沖縄の皆様と財団の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。一年間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。アメリカに帰ったら、日本語をうちな一3世、4世の子に沖縄の良さを話したいと思っています。そして、私自身も次のうちな一んちゅ大会までにはお金を貯めてまたここ、沖縄にきたいと思っています。一年間本当にありがとうございました。



私のこと忘れないでくださいね！



沖縄の良さは絶対にわすれません。
本当に一年間ありがとうございました！

“故郷となった沖縄”

大浜 フィリス アン

2006年5月4日に沖縄へ着きました。私ははじめ日本語がぜんぜん分かりませんでした。来たばかりの時、沖縄の天気は寒くて、雨が降っていました。私は沖縄がエデンの園だと思っていたので、はじめて来た時はちょっとがっかりしました。そしてすぐ、北口の寮に住むことになりました。カナダの大学の寮にはインターネットと電話がありますが、北口の寮にはインターネットも電話もありません。暖房や冷房もありません。それで、文化ショックを受けました。カナダの家族や親戚、友達に無事に着いたと連絡したかったのですが、それもできませんでした。とても寂しかったです。

でも、沖縄の生活に早く慣れたかったので、先輩にたくさん質問しました。最初は、日本語がぜんぜん分からなかったから、英語が話せる友達とだけ遊びました。日本人は日本語をとて早く喋るし、私も日本語をぜんぜん話さなかったから、日本語を話す時、恥ずかしくなりました。間違えることを心配していたからです。でも、いっしょけんめい日本語を勉強しました。また少しずついろんな留学生の友達に会うようになりました。韓国人や中国人や南米人と友達になりました。私はいろいろな国の習慣を習いました。日本人の友達もできました。私は日本語をたくさん間違えましたが、だいたい日本人は私が言う意味がわかります。それで、いろいろな人に会ったり、沖縄の有名な所へ行ったり、沖縄の習慣を習ったりして、だんだん沖縄の生活が楽しくなりました。また寮でインターネットと電話が大切ではなくなりました。



初級の友達と一緒にビーチへ行きました



はじめての見学は読谷のGammaやサトキビ工場へ行きました。初級の会話クラスでは沖縄

の歴史を習いました。それはとても興味深かったです。また、初級のクラスは7月に栄町市場商店街で働きました。私はリサイクルショップでボランティアをしました。また日本語を練習しましたが、アルゼンチンのレストランが一番楽しくて面白い所でした。そこでとても美味しい料理を食べました。働いた日から二週間くらいたった後、市場で初級クラスの人々と発表をしました。これは私のはじめての発表でした。知らない日本人の前で、日本語で発表したので、私はとても緊張しました。今年2月に琉球大学スピーチ大会でスピーチを発表しました。私のトピックは「沖縄の海のごみの問題」でした。そのスピーチは覚えなければならなかったもので、いっしょけんめい覚えました。私はちょっと緊張しましたが、栄町市場商店街より緊張をしなかったです。



去年5月から日本でいろいろな所へ行きました。去年の夏休み、東京と京都と神戸へ行きました。この旅行はとても楽しかったです。東京では新宿や東京タワーやディズニーランドへ行きました。京都では金閣寺へ行きました。これは一番きれいな寺だと思いました。京都でいろいろな寺へ行って、舞妓さんの踊るのを見ました。神戸にはいろいろな国際的な所があります。神戸のパンやケーキが一番美味しいと思います。



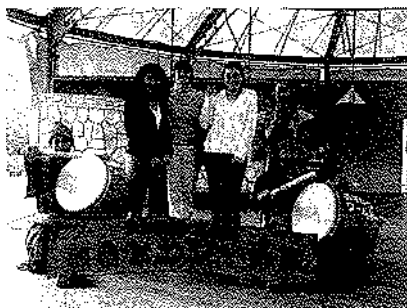
去年の夏休み石垣島へもいきました。親戚に会いました。おばあさんはいろいろな大切なことを教えました。例えば方言や沖縄の人の考えなどを学びました。また従兄弟の子供に挨拶をしました。また、石垣で私と陳シンシア（アメリカの県費留学生）が親戚だということがわかり、びっくりしました。小浜島へも行きました。このときはシンシアさんと早苗さんと謙治もいっしょでした。私たちは「ちゅらさん」という番組が大好きです。「ちゅらさん」は小浜島で撮影をしましたね。また番組で二人の子が木を植えました。台風が来たから、木が倒れたそうです。私はその木を見たかったから、ちょっとがっかりしましたが、小浜の自然はとても美しくきれいでした。沖縄で夏の時が一番楽しい時だと思います。いろいろな祭りがあるし、国際通りは賑やかだし、海はとてもきれいです。毎日エイサーを見ることができ、三線の音が聞こえます。



今年の2月、西表島へ行きました。私は西表ヤマネコを見たかったですが、見れませんでした。今100匹くらいいるそうです。ヤマネコは少ししかいないので、いなくならないか、とても心配しています。ヤマネコはとてもかわいいですよ！西表島にいろいろな大切な動物がいるから、みなさん西表に構ってください。

冬休みに母と母の友達が沖縄へ来ました。私は案内しました。一緒に首里城やちゅら海水族館や沖縄ワールドへ行きました。私は案内したので、丁寧な日本語をたくさん喋りました。たとえば予約をしました。母と母の友達は沖縄の観光客の所が大好きだったんです。私は母に沖縄の習慣や歴史、シーサーなど、私が沖縄に来て習ったことを教えました。

このように、沖縄ではほんとうにいろいろな経験をしました。県費留学は私にいい好機をくれました。沖縄にずっと住んでいる私の親戚の生活を体験できました。カナダに帰っても、沖縄で出会った友達との関係が生涯続くと思います。はじめて来た時私は沖縄が変な所だと思いましたが、今沖縄は私の故郷だと思っています。私の日本語はあまり上手じゃありませんが、去年から私の心はもっと沖縄らしくなっています。財団の方々、ありがとうございました。感謝の気持ちはとても日本語では言い表せませんが、沖縄では一番いい経験ができたと思います。10ヶ月くらいたくさん経験をしたから、せんぶを覚えることができません。カナダに帰っても、みなさんに沖縄の習慣や音楽や海を教えたいです。私は沖縄のことをぜんぜん忘れないつもりです。



沖縄で過ごした一年間！！

新城 えみ レナータ

残念なことに終了式がだんだん近づいてきました。やっと芸大の皆さんに慣れたときに、別れるということはとても寂しいです。でも、沖縄に来て本当によかったと思います。ブラジルでは、両親の店での手伝いや学校での勉強などをして、日々を過ごしていました。週に一回知花千恵子先生とおっしゃる先生の道場を通い、踊りと箏曲を習っていました。先生はいつも親切に色々なことを教えてくださいました。先生と両親の応援のおかげでブラジルの箏曲のコンクールで最高賞を受賞することができました。先生と両親に感謝しています。

沖縄に来て初めて一人暮らしをしています。最初の頃は大変なこともありましたが、そのうち慣れてきて毎日の生活がより楽しくなりました。今まで覚えていますが、初めて大学へ行ったとき、どんな人に出会えるのか友達ができるのか不安でした。しかし、大学の皆さんはいつも親切で優しくしてくれたので徐々に友達になれました。

5月に上地尚子先生の道場で箏曲を習い始めて、7月に野村流箏曲保存会の新人賞を受賞しました。その時、芸大の友達が応援しに来てくれて、皆の笑顔を見て、緊張していた私も笑うことが出来ました。友達のおかげで安心することができました。



(コンクールの時!!
本番前の練習中!!)

夏休みに本土へ遊びに行きました。その時、親戚に会えて、とても嬉しかったです。でも、残念なことに2週間しかいられませんでした。

そして、10月の定期公演の時に初めて大学からの舞台に出ました。緊張していましたが、皆に力をいただいて、良い舞台ができました。親戚も見に来てくれて嬉しかったです。留学の目的は箏曲を勉強することでしたが、芸大で他に色々なことを学ぶことができ、とてもいい勉強になりました。三線や太鼓や笛や踊りや組踊りなどを習いました。一度も触ったことのない太古と笛まで、沖縄で体験ができました。沖縄で初めて見た芸大の先生の組踊りの舞台にも感動しました。

去年行われた第4回世界のウチナーンチュ大会でブラジルから来た友達や県人会の皆さんや親戚に会って、毎日一緒に遊んでいました。とてもいい思い出になりました。素晴らしい大会でしたが、箏曲の芸能祭のため、大会にはあまり参加できませんでした。

11月に芸大祭が行われました。最初はストレスが溜まるほど忙しかったですが、皆の努力を見て私も頑張る気になりました。祭りが終わって、参加してよかったと思いました。先輩の言ったとおり本当に楽しかったと満足しました。

気がついたら友達とお正月のCOUNTDOWNをしていました。1週間ぐらい親戚の所へ行って、知らなかったいここにも会えて、とてもよかったです。もっと親戚と一緒にいたかったです。1月に学内があったので、早めに家へ戻らなければなりません。

1月の学内は1年生と4年生の学内でした。初めて1年生の学生が全員参加したので、嬉しかったです。皆が最高の舞台にしたいという気持ちだったと思います。

2月に芸大からの最後の余興だったので、少し寂しかったです。

舞台が終わって、1年生と送別会をしました。残念ながら、全員来られませんが、来た人とたくさん楽しむことができました。そして2月の終わりに野村流箏曲保存会からの最後の舞台でした。

芸大で素晴らしい先生方、素晴らしい人達に出会えて、本当に良かったと思います。芸大の授業で習ったこと、友達に教えてもらったこと、上地尚子先生や宮里英明先生が教えてくださったことを、一生忘れません。ありがとうございます。

沖縄の皆様、芸術大学の皆様、親戚の皆様、友達の皆様、財団の皆様、そして沖縄県人会ブラジル支部の皆様、本当にお世話になりました。また来たいので、その時にもよろしくお願い致します。再会できる日を楽しみにしております。

友達と作ったシーサー！！



友達と遊びに行ったとき

人生の良い勉強

新里 ヨネ

沖縄で県費留学生として勉強を出来、特異な機会だと思います。ブラジルで、色々なウチナンチュ日系人の中で選ばれていましたので、[夢見たいなー]って感じしました。

最初に、日本語で普通のお話を聞いたら、私にとって、とっても速かったので、意味をあまり分かりませんでした。ブラジルで二年間半日本語を勉強しても、沖縄へ来て言葉を通じませんでした。しかし、皆はゆっくり話してくれて、だんだん毎日のお話方になれて来ました。

沖縄県立芸術大学で琉球伝統芸能を学びました。その中で、琉球舞踊、組踊り、三線、太鼓と笛を習いました。一番難しいのは組み踊りでした。私は組み踊りを初めて習いましたので、お稽古の時に大変でした。沖縄方言をあまり分からなかったし、その上、経験も全然なくて、困ったと思います。けれども、組踊りの先生はいつも優しく教えてくれたので、良い勉強になりました。

芸大でだけではなく、玉城秀子先生の道場で琉球舞踊をやったり、小林流の上間康弘先生の道場で空手を習ったりしました。

空手道場で先輩達とお稽古したり、一緒に遊びに行ったりしました。皆と仲良くして良い思い出ばかり作れました。

留学生活の中で、琉球新報の古典芸能コンクールが一番大変だったと思います。私は初めて琉舞と笛の新人賞を受けましたので、お稽古の厳しさの事を全然知りませんでした。ブラジルの先生方はお稽古する時、ビデオテープから曲を覚えるので、舞踊の細かい所をあまり直せません。沖縄でお稽古始まって、少し苦しかったけれど、先生方と友達はいつも手伝ってくれましたので、コンクールを無事に終わって安心しました。皆は支えてくれたので、合格できました。

笛の場合も大変でした。受ける事に決めるまで時間がかかりました。[良い経験になるために受けて見たら良かったじゃないですか] と芸大の笛の先生はいつも言っていました。あの時、不安になっちゃって、申し込みを最後の日に出しました。私はいつも忙しくて練習する時間はあまりありませんでした。たけど、先生はいつも私の事信じてくれて、毎日30分ぐらい練習を一所懸命やって、結局合格でした！

ウチナンチュ大会の時にも ブラジルから来た友達と世界のウチナンチュ日系人にも会えてとても良いチャンスでした。親戚に出会

ったり色々なイベントに参加したり、首里城で踊れたりして素晴らしかったです。

沖縄にいた時、大変な時もあった、時々孤独を感じました。初めて海外で一人暮らししたし、困った時に自分でトラブルを治さなくてはいけませんでした。先輩達、先生方と友達に [自信を持ったら、何でも出来るよ]って よく言われて、問題があっても、自分で解決出来た時とても嬉しかったです。

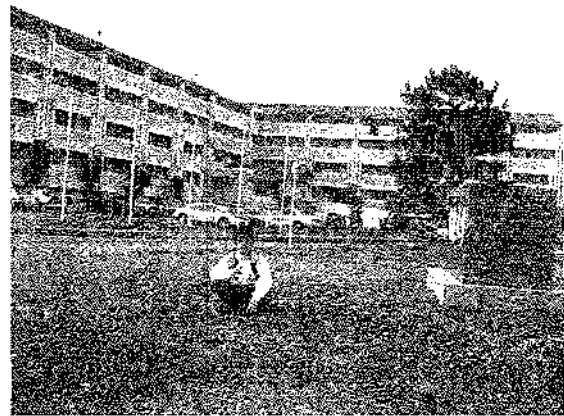
今から、もちろん、沖縄で学んだ事を日系人に伝えて、琉球伝統芸能も守りますが、留学生として芸能の世界の事だけじゃなくて、色々覚えられて、人生にとって、一番良い経験だと思います。

沖縄の皆様、どうも有り難うございます！

沖縄での10ヶ月間の留学生活、楽しい思い出作り

照喜名 稲嶺 重邦

私が2006年5月の終わり頃、沖縄に来て初めの一ヶ月はとても辛く、毎日“早くペルーへ帰りたい”、“帰るまでまだ10ヶ月かあー”だけを口にしていました。今はその頃の自分を思い出すだけで大切な時間を無駄にしたことが多くてすごく後悔しています。でも、この短い期間でこんなに楽しく過ごせたからでこそ、こんなふうに終わった後から気づく物だ。。。と自分は思っています。



ペルーでは家族と住んでいて毎日仕事へ行き、友達とあそんだり、色々な事をしていました。沖縄に来てからペルーでは普通の事が、ここではそう簡単にはいきませんでした。それは：食事、洗濯、家賃、電気代など色々な事が沖縄に来て始めての壁でした。初めての1ヶ月は日本語が下手、大学の書類とかを書くことが出来ない、授業に参加しても意味が分からない、携帯電話を取る時や店で買い物をする時も色々聞かれて何をどうしたらいいのか分からなくて大変困りました。だけど困って、恥かいて、ようやく日本語が上手くなりました、と私は思います。次は、寮に住んでいる留学生のみんなと話すこと、友達になることでした。運がよく、その時期にサッカーワールドカップが行われており、毎日みんなが集まって試合を見たり、サッカーをしたりみんなと仲良くなりました。それでもほとんどの日は一人で行動していました。



私の毎日を変えたのは名護国際交流会館で文化フェアが行われる2週間前でした。それは2006年に南米の文化を発表する番で名護に住む南米の人が集まり、ダンスの練習や料理など色々な事、この文化フェアに向けてほしい毎日みんなと会っていました。私はペルーの文化を発表することに決まり、と言うか、勝手に決められて、しかも人前で話すのは初めてだったけど、逆に面白く楽しい経験でした。



。。。沖縄に夏が始まりました。。。。

7月の終わりごろ那覇国際道りで行われた一万人エイサーや8月に沖縄全島エイサー祭りに参加する為、この暑さの中で厳しい練習を6月からして来ました。イベントは大成功でした、しかも体重は5キロ落としました。その後、神奈川に住んでいる姉の所へ2週間行って、姉の子と始めて会えて本当に嬉しかったです。残念なのは私がもうペルーへ帰って、またいつ会えるか分からないことです。(まあ、でもしかたがない事です)。

私は海には行くことが好きではない人。。。でしたが、寮の友達といつも海に行
って、週に4回ぐらい海へ行っていました。おかげで今は海が好きになりました。
あと具志川と本部中学校に行き、国際交流をして自分たちのそれぞれの国の事
を話しました。



10月の終わりまで毎週海に泳ぎに行きました。それで肌が黒くなり、ウチナン
チュ大会の時、ペルーから来た友達は私を見てびっくりするぐらい日焼けしてい
ました。ウチナンチュ大会の開会式にエイサーを踊り、ただの一曲であったが
前みたいにステージを見ているのではなく、ステージに立っているって事が自分
でも信じられないくらい嬉しい思い出になりました。



ウチナーンチュ大会、そして夏も終わり、雨の日と台風でほとんど毎日部屋にいました。それをきっかけに、三線を練習していました。おかげでちょっと引けるようになりました。



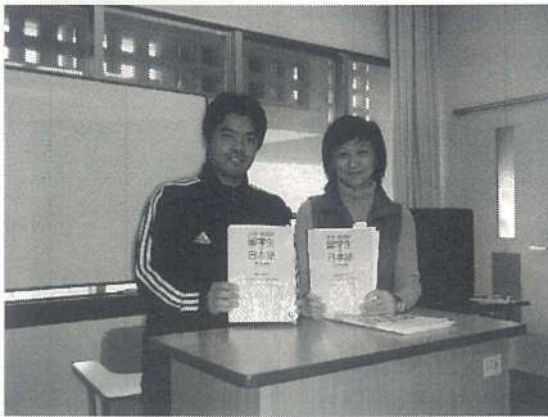
それから大学の授業に行き、時間がある時に自転車で色々な場所に行ったりしました。名護を回り、本部、今帰仁、屋我地島、古宇利島など行きました。



11月にエイサーの出演や、留学生パーティー、そして寮の友達とアンダギーとかドラゴンボールがすごくうまい店にも行きました。12月は寮の大掃除がありました。その日みんなが手伝い、寒い日の中、みんなと楽しく掃除をしました。正月には北谷でのもちつき大会に行き、初めてのもちつきの経験でした。



大学の授業も終わり、2月に内地に12日間行きました。短い間であったけど滋賀、名古屋、静岡、神奈川を回りました。楽しかったけど、天気が良かったら、もっと楽しめたと思います。



沖縄へ戻り、気が付いたら沖縄での留学生活はあと3週間。そして毎日が忙しくなってきました。帰る準備や、だんだん寮のみんなが帰っていくので送別会が多くて、空港まで見送りに行ったこともありますし、大変忙しい日々でした。

今はもう帰る寸前、後3日。やり残すことは残りの準備と部屋の掃除。それから色々な所を最後に回って、友達や色々な人にお別れのあいさつをするぐらいです。私にとってはこの10ヶ月間は最高でした。



自分にとっていい思い出に残るものが山ほどあり、多くの人と友達になり、‘沖縄に戻りたい’って気持ちが高まって、またいつか沖縄に来れるようがんばり、その日がくるまでペルー沖縄県人会、そして自分が指導部長である琉球國祭り太鼓ペルー支部を通してペルーのみんなに私が沖縄で習ったこと、生きたことを伝え次々沖縄に来る留学生たちをサポートしてがんばって行きたいと思っています。財団の皆さん、日本、そして沖縄、心から：「ありがとう」。



...そしてまた新たな留学生活が生まれる。
沖縄、また次に会う日まで... おつかれさまでした。

「沖縄プロジェクト」:

呉 俐君

私にとってこの一年の中で一番大事なイベントは、私の母校である台湾の東海大学によって実施している「沖縄プロジェクト」というスタディ・ツアーです。2004年から東海大学の学生を中心にこのプロジェクトを立ち上げ、毎年の夏に沖縄で行われています。この活動は、東海大学の日本語学科の学生と、沖縄の大学生、そして日本本土の大学生が2週間、沖縄各地を回り、たくさんの人々と出会い、沖縄の人々がどのような歴史的な背景を持ち、どのような思いをかかえ、生きているのかを学び、それについて語り合うというスタディ・ツアーです。

このツアーに参加して普段沖縄の人々も行かないところへも訪ねてきました。例えば、

①沖縄映像文化研究所



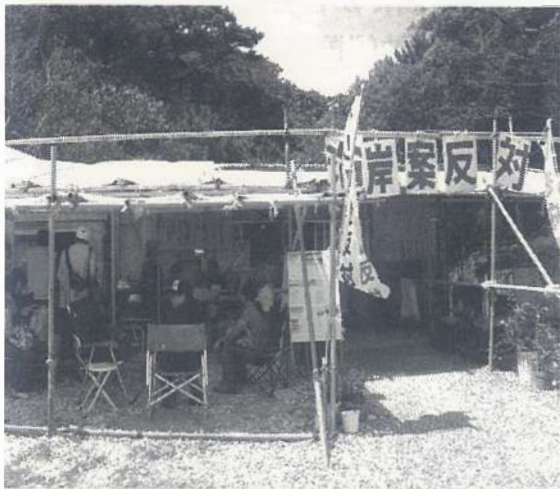
映画「久高オッデセイ」製作所。伝統と神話を中心に話を聞かせてもらった。

②象のオリ



2006年八月一日知花昌一さんの土地返還祝宴に出席。

③辺野古座り込み会



海上基地建設反対会。毎年の夏、我々必ず現地を訪ね、実情を理解する。



私と平良神父さん。「沖縄での米軍基地が台湾海峡を守ってくれていることを認識しているのか？」と平良さんに質問された。

感想：

このツアーに参加して沖縄の人々の考えと台湾人の考えには大きな隔たりがあることが分かりました。グローバル化の現在、一つささやかなことでも他人に大きな帰結をもたらします。これから、台湾と沖縄はどのように連携していくのかを期待しています。

特別感謝したい人：

まず、台湾と沖縄の中琉協会職員に感謝を申し上げたいと思います。煩雑な手続きをアレンジしていただき、貴重な留学生活ができて本当にありがとうございます。次、県の財団を含めてすべての先生方や県庁の職員のお蔭で琉球大学で素敵な一年を過ごしました。何よりも大切な経験になり、感謝の気持ちを重ねて申し上げたいと思います。

実は、2004年に沖縄大学で一年の交換留学生として沖縄で留学しました。当時、私にすごく世話をしていた先生と友達が沖縄にいらっしゃるため、今回の県費留学生の試験を受けてみました。見事に試験を合格して沖縄に戻ることができて本当に夢の中でも微笑むぐらいうれしかったです。ここで少し私

の親友や先生方を紹介したいと思います。

サバイギャル：なぜか分からないですが、いつの間にか自分たちの事をサバイギャルと呼んでいます。成員は、約十八名でみんな沖縄国際大学の卒業生です。心から私のことを受け入れ、たとえ私の日本語上手じゃなくても一つずつ丁寧に教えてくれる彼女たちにとって私はもはや台湾人ではなく、もう既にウチナーンチュであり、サバイギャルの一員でもある。



美美ビーチBBQ

桜祭りで野菜ゲット

鈴木ゼミ：私の指導教員である鈴木先生と鈴木ゼミの皆さんも是非ここで紹介したいと思います。去年、琉球大学に辿り着いて未来に凄く迷っている私を受け入れたのは、アジアに非常に興味を持ち、留学生をたくさん受け入れている鈴木規之先生です。先生へのありがたい気持ちが伝えきれないです。



鈴木先生とブイ先輩

ゼミのみんな

以上

“なせばなる、なさねばならぬ何事も ならぬは 人の なさぬなりけり”
徐慈伶 台湾

“あっ、きれい!!!” 去年の4月17日、初めて飛行機の窓から沖縄を見た時に、そう思いました。

台湾から僅か一時間の距離で、こんなに美しい島があるなんて、思ってもいませんでした。

そして、心が弾み、ワクワクしていた私が、飛行機から降りて、留学生生活の第1歩を踏み出したとき、やっとあることに気づいたのです。

それは、厳しい現実が待っているのだ、ということです。
目がくらむほど、眩しい日差し、びっしょりと汗をかくほどの熱気、そして、教室で私たちを待ちかまえていた大学の先生方。

「なぜ沖縄に来たんですか？」
到着してから二時間後、早速、噂の先生方が面接をしてくださいました。

「出世して、えらくなりたいからです。」と、私は、真剣に、そして堂々と答えたのです。

すると、先生方は思わず笑い出したのです。私は“何がおかしいの。失礼ね。”
と思い、先生方をにらみつけました。

日本語がもっとうまくなり、カッコいいキャリアウーマンになろう、と、私はまじめに考えて沖縄に留学に来たのです。なのに、何で笑われるんだろうとちょっとむっとして不機嫌になりました。

ところが、留学生活を送るうちに、その考えは180度変わってしまったのです。

「どうして沖縄にきたの？」と、今の私が聞かれたら、

「人間として、大きく成長するために、沖縄にきたんです。」と答えます。

留学前に、すでに社会人だった私は、女性でも頑張れば出世できると信じ、一生懸命仕事をしていました。でも人間として、視野が狭い自分に気付きました。

そんな私が、琉球大学でいろいろな国から来た留学生と一つの教室で肩を並べて学び、共に笑い、共に喜び、時には怒り、時には涙し、沖縄での時間を共有したことが、人生の宝物になりました。

日本を始め、アジアの友人たち、ヨーロッパの友人たち、北米、中南米の友人たちが、私の先生でした。

言葉と文化の壁を越え、お互いに助け合い、支え合い、この一年間の留学生活を無事に終えることができました。

教室に響く笑い声、貴重な見学の経験、とても快適とは言えない寮での生活、緑が溢れるキャンパス、市場で出会ったお兄さん、沖縄の青空とちゅら海。

私たち県費留学生の一人一人の人生の意味を、再認識させてくれた沖縄。

すべてが、思い出に変わってしまうなんて、悲しく思います。

どんな困難にあっても、どんな挫折にあっても、負けずに人生に向き合う勇気をくれた、第二のふるさと、沖縄。

私は、ここで学んだ事を生かし、沖縄と母国の架け橋として、頑張っていきたいと思います。

「なせばなる なさねばならぬ 何事も ならぬは 人の なさぬなりけり」
これは、私の人生を変えてくれた、魔法の言葉です。
これから、国に帰っても、いつまでも、この言葉は忘れません。

このような貴重な留学経験の機会を与えてくださった沖縄県と財団の皆様、心から感謝しています。

山内理事長、長濱さん、平田さん、小波津さん、高良さん、沖縄県交流推進課の皆様、そして、琉球大学の先生方、留学生課の皆様、私たち留学生を陰から支えてくださった方々、すべての方のお名前をあげることはできませんが、感謝の気持ちでいっぱいです。

この一年間、本当に色々お世話になりました。
帰国は、終わりではなく、新たな船出だと思っています。
本当に、ありがとうございました。

幸運のあたし

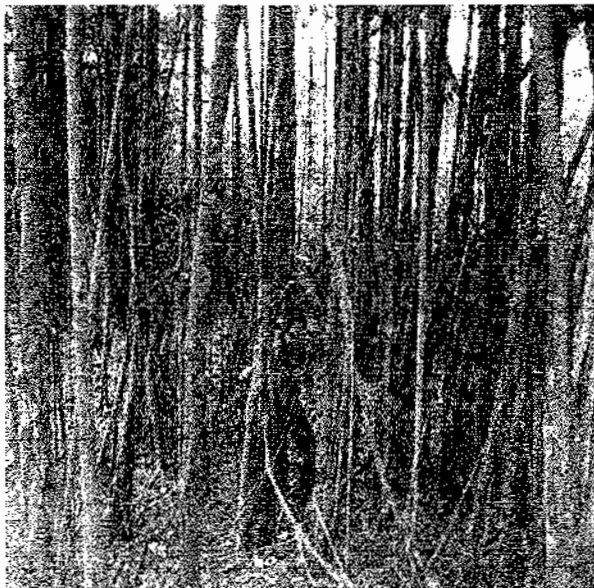
王 素斌

いつもさまざまな人が海外留学するのかが聞きましたが、あたしも海外留学ができるのか全然考えませんでした。でも沖縄県国際交流・人材育成財団のおかげで、あたしは2006年の中国の唯一の県費留学生になりました、皆はあたしのことを幸運児と呼びました、この一年間はあたしの人生に、永遠忘れ難い一年です。

この一年にいろいろな人生で初めての事が起こりました、初めて一人で飛行機を乗りました；初めて外国へ行きました；初めて一人で舞台を踏みました；初めて刺身を食べました；初めて桜を見ました。。。どちらでもあたしに深い印象を残りました。



あたしは中日友好カラオケ大会で優秀賞をもらいました



金鋼石林山のガジュマルの気根迷宮



名護の八重岳の桜とあたし

水族館の可愛い魚夫婦とあたし



あたしは中国で七年間の幼稚園先生だったので、日本に来る前にちょっと心配しました：学生の生活が慣れられますか？日本語が難しいですか？新しい友たちができますか？でも来た一週間後にその心配がすっかりなくなりました。とてもいい先生がいるから。中国の大学の先生は大体忙しくないですが、日本の先生たちは一番忙しい先生だと思います。それにユーモアがあって、親切で真面目でいつも学生のことを考えています、例えば学生の誕生日パーティーを開いて下さって、学生たちに市場とか小学校とかモノレールとか県民の森とかの見学の機会をくださいました、毎回の見学は発表が必要で、先生たちはわたしたちの日本語が上手になるために何回もチェックしてくれました。それに文法ではなくて発音の練習もいっぱいしました。時々先生たちはご飯も食べないし、夜12時まで働くこともありました、あたしは心から先生に敬服しています。



栄町市場で見学（茶屋で働く） モノレール見学（初めて乗ります）



誕生日のパーティーで（先生 座喜味城で初級クラスの皆さんの記念写真
が買ったケーキです、やった！）

あたしは中国で三つ方言が話せるので、あたしにとって日本語が話し易い
です。それに日本と中国の漢字は大体同じですが、一番難しいのは助詞だけ
だと思います。あたしはいつも興味を持って一生懸命勉強しますので、8ヶ
月の勉強後日本語能力試験2級を受けて合格しました。それに初級スピーチ
大会で優秀賞をもらいました。よかったですね。

沖縄は本当にすごいところだと思います。日本で一番きれいな海もあるし、
素晴らしい水族館もあるし、空気もいいし、沖縄の人の音楽の水準も高いし、
それに怖い地震もないし、天気もあまり寒くないし。。。でも一番きれいな
のは沖縄人の暖かい心だと思います。道に迷った時たくさん人を連れて行っ
てもらったり、いっぱい無料のクラブで三線とか、琉球ダンスとかを勉強し
たり、します。どこでもサービスがいいし、どこでも笑顔を見えるし、沖縄
は大きい家族だと思います。あたしは沖縄が大好きです。

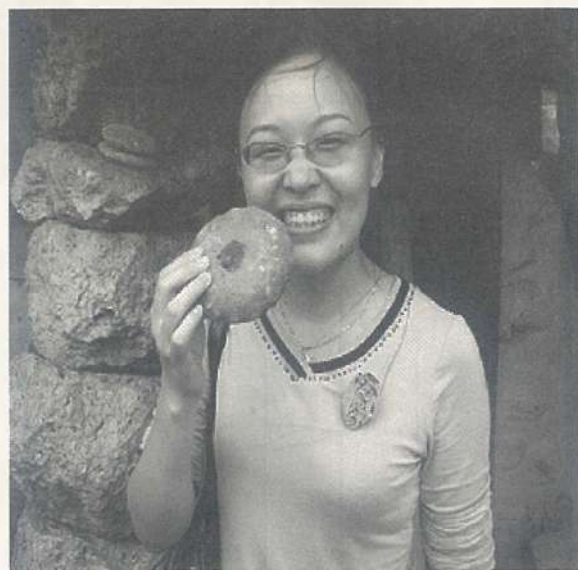
あたしは一番好きなところは学校の近くの「Book Off」という古本屋です。
本も安いし、中で無料で読むこともできるし、あたしは週末よくあの本屋へ
行きます。日本の漫画は世界でとても有名なので、あたしは興味を持って読
みました。漫画は図もあるし、字も少ないし、あたしにとって日本語の勉強
に一番いいと思います。あたしはいつも本を読むだけじゃなくて、たくさん
本を買いました。今帰国の荷物を準備しているところで、本を国へ送るの郵
便料金が高いのを気をつきました。大変ですね。

日本人はいつも礼儀を注意しているようです、尊敬語とか、丁寧語とか謙
譲語とかとても複雑ですが正しい礼儀があれば、皆にこの国は文明国だと思
わせますね。でも一つのことごとがちょっと不思議だと思います。先生によると、
日本人は「美味しくない」の話は全然話さないそうです。もし美味しくない
物を食べて「美味しい」と相手に言ったら、熱心な相手の人は多分もういっ
ぱい食べ物をくれますよね。こんな時どうするの？目を閉じて食べるか、そ

れとも皆注意しない間にゴミ箱を探すか？または食べるの前に美味しいと言って、食べた後美味しくなかったら何も言わない？本当に面白いでしょう？



沖縄県立向陽高校の学生とあたし



陶器工場見学（美味しいそうね！）



空手道場に訪問する



あたしは図書館で一生懸命勉強する

この一年間は沖縄県と人材育成財団のおかげで、何も心配なく、**留学生活**と勉強がよくできて、心から感謝します。あたしは本当に幸運児になりましたね。帰国してから、沖縄の素晴らしさを友達に伝えたいと思います。それに幼稚園の子供に日本の歌とかダンスとかを教えてあげたいと思います。将来にあたしは頑張って沖縄に戻りたいと思います。

平成18年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒900-0034

沖縄県那覇市東町1-1 那覇東町会館7階

TEL: 098-941-6755

FAX: 098-941-6812